



道田貞治先生を偲ぶ

大正六年卒
大阪電氣通信大學卒業教授
松田長三郎

去る十月十四日、明治四十五年
電気工学教室御卒業の大先輩道田
貞治先生が亡くなられた。明治最
後の年の御卒業であり、卒業生名
簿を見るにつけても、大先輩の方
々がだんだんと他界せられること
は、淋しい限りである。

私は昭和三十年十一月、京都大学を退官後、戦前の考収では、退官後は、それまでの京大退官の先生方が、そうであられたように、静かに余生を楽しもうと思っていたが、敗戦後、時世の激変と、平均寿命の延びたことなどもあって、

して下さったが、そのとき図書館が、少し不十分のように思われたので、そのことを言うと、それでは、その面倒を見てほしいとのことで、あつたので、私の希望を容れて下さるならばお引き受けしまして、と言つて、教授会の了承を得て、お引き受けしたのであつたが当时たしか年額二百八十万円の図書館費であったのを、一躍九百万円位に増額してもらつた。今は年額千四百万円位を出して貰つてゐるが、これは本学のような規模の私立大学は勿論のこと、国立大学の図書館に比しても、大変多いこと

幸いに鳥養先生や故鈴木島津社長さんの御推挙により、成安女子短期大学長に迎えられ、及ばずながら女子教育に従事できることは幸福であったが、足かけ十年、一応所期の目的も、曲りなりにも果せたかと思つたので、昭和四十一年三月退職と同時に、電通大に迎えられた次第である。

道田先生は温厚誠実、実に謙虚な方であると同時に、自己の信念に忠実であり、しんの強い一面も持つておられた。又病氣せられたるにも係らず、バスと電車を乗り継ぎ、大阪市内へ入つてから車に乘られていた。私が初めて大学へ行つたとき、大学内を親しく案内

館は、大学の頭脳として最も重要な施設であることを理解して下さった結果に外ならぬ。又一昨年に田学長初め浅野常務理事その他理事者側の深い理解の賜ものと感謝しているのである。また大学を良くしているには、教授陣容を充実させねばならぬ。それには経理の許す範囲で、できるだけ、給与を良くすることが大切と言つて來たが、今は、本学の初任級は大学新卒業者で、たしか五万三千円以上と思うが、近畿の私立大学からは、そんなことをしてくれては困ると言われてきているようである。これには大学の教職員組合の中野執行委員長（洛友会会員）の尽力によることも多いが、理事者側も十分の理解を示して、そういうことになつてきている。（本学には八名の洛友会会員が奉職している）

本学は名称は、電気通信大学であるが、内容は電子・通信・電子物理・電子機械・経営（情報）の五工学科からなり、現在学生数は工学部四三・一六名、短大五〇・五名

計四八二二名を擁する電気工学専攻の大学として、独自の地歩を占め、多数の有為の卒業生を社会に送り、東京にある国立の電気通信大学と共に、斯学における東西の双璧であるが、道田学長の大きな御功績であった。

近來各教員の研究室も次第に充実して来て、各自、居室と研究室を持ち、自由な雰囲気で、各自の好む研究を、自由に行えることは大変ありがたい。

常に内外の教育事情に留意せられ、御意見を教育関係の新聞や雑誌に載せられて、別刷を頂いたことも屡々であった。東海大学総長松前重義博士も通信省当時、道田学長の部下であり、最近同博士の刊行に係る膨大な研究論文集には連名の論文が載せられている。

計四八二二名を擁する電気工学専攻の大学として、独自の地歩を占め、多数の有為の卒業生を社会に送り、東京にある国立の電気通信大学と共に、斯学における東西の双璧であるが、道田学長の大きな御功績であった。

近來各教員の研究室も次第に充実して来て、各自、居室と研究室を持ち、自由な雰囲氣で、各自の好む研究を、自由に行えることは大変ありがたい。

常に内外の教育事情に留意せられ、御意見を教育関係の新聞や雑誌に載せられて、別刷を頂いたことも屡々であった。東海大学総長松前重義博士も通信省當時、道田学長の部下であり、最近同博士の刊行に係る膨大な研究論文集には連名の論文が載せられている。

一昨年来、世界に吹き荒れた大學紛争の嵐は、ご多分に洩れず、電通大にも及び、随分心労せられた。本年の静かな学園を見るにつけても誠に感慨無量である。

学園発展に尽瘁され、今日の盛況を来たされた道田先生も今や亡し。意をつくさないが、温容を偲びつつ、謹んで御冥福をお祈り申上げる次第である。

本学は名称は、電気通信大学であるが、内容は電子・通信・電子物理・電子機械・経営（情報）の五工学科からなり、現在学生数は工学部四三一六名、短大五〇五名

友会会員が奉職している
本学は名称は、電気通

信
大
学
で
電
子
・
信

情報工学科の創設について

京都大學教授
(昭和十二年卒) 清野武

最近における基礎的学術の進歩と、各種技術・産業の著しい発展に対応して、工学が細分化の方向をたどり、わが国の各大学の工学部も多数の学科にわかつてゆく傾向がみられると同時に、これら多数の学科を、物質、エネルギー、情報という三つの概念を中心として括り直そうとする動きも起つてゐる。

われわれの電気関係三学科が特に学部教育に関しては、かねてから一つの「系」として運営され種々の意味で成果を挙げてきたがここ数年来、情報科学の異常なまでの進歩(?)に対応して、この方面を志向する学生の比率が著しく増加している。このことは、産業界からの要求によるところも少なくないであろうが、情報科学といふ若い学問のもつ本質的な魅力にその根源があるものと考えるべきであろう。

しては、昭和四十四年度から新学科を設置することを目標に、文部当局に対し、予算その他の折渉を行なつたが、当時の全国的な学園事情はこれを許さず、一年間延期のやむなきに至つた。幸いにして、この新学科は昭和四十五年度より正式に発足し、すでに四十名の情報工学科学生が、教養部一年に在籍している。

(教授)	坂井利之	(昭22)
(助手)	杉田繁治	(昭37)
(助手)	田畠孝一	(昭38)
計算機ソフトウェア講座		
(教授)	清野 武	(昭12)
(助教授)	矢島脩二	(昭31)
(助手)	池田克夫	(昭35)
(助手)	市田浩三	(昭40)

(六) 情報システム工学講座
(昭和四十八年度・増設)

(昭和四十六年度・増設)
〔三〕計算機システム講座
(昭和四十六年度・増設)
〔四〕計算機ソフトウェア講座
(昭和四十五年度・振替)
〔五〕情報処理講座
(昭和四十七年度・増設)

(昭和四十五年度・振替)
（二）論理回路講座

他の多くの学科と同様に、六講座からなり、各学年の学生定員は四十名である。ただし教官組織は四ヶ年をもつて完成する予定であつて、講座編成と設置年度はつぎのとおりである。

中の十五名を情報工学科に移し、後者には新たに二十五名が増員されたわけである。

新学科の建物は、来年度から着工される見込みであるが、その敷地は、現在の電気係の建物からあまり遠くない場所に選ばれるはずである。

さてこのような状況のもとで発足した情報工学科が、どのような性格をもち、どのような役割りを果たすべきかについては、各方面から深い関心を寄せられているところであるが、ここでその詳細を論することは紙面の関係から不可能である。ただ、上掲の講座編成からも理解されるとおり、この新学科は、基礎論的部門、計算機部門、情報システム部門の三つに対しして、ほぼ均等の重みを与え、狭

活動において互に隔絶して存在しないことは当然である。

すなわち、学部学生に対する特別研究の指導、大学院生の所属研究室などについては、系外といえども、なるべく弾力的な運営が望ましく、また教官の交流などによつて、両者の関係をさらに緊密に保つよう努力が必要であろう。

また、学内におけるこの種の協力ばかりでなく、実社会における卒業生の活動についても、その協力を助長するような方策が、広い視野に立つて考えられるべきであらう。

さらに、既存の諸学科、特に電気系三学科との間の協調は、情報科学の本質から考えて、全く不可欠であり、形式上、電気系の外に創られたとはいえ、電気系諸学科と情報工学科が、その教育・研究

情報システム部門の三つに対して、ほぼ均等の重みを与え、狭義のプログラミングとか情報処理技術などに偏することを避け、また単純なハードウェア・ソフトウェアの区別にこだわらず、システムとしての計算機、これを支える基礎理論、計算機を含む情報システム等を、はじめて探究してゆく

A black and white illustration of a simple wooden birdhouse. The house has a gabled roof with a circular vent hole at the top. A small bird is perched on the open entrance below the vent. The body of the birdhouse is made of vertical planks.

このように、学問的にも一つ独立な科学として確立され、産業界においても専門技術者の著しい不

の情報工学科学生が、教養部一年に在籍している。

また講座振り替えと同時に、学生定員も電気工学科第二学科五十名

創られたとはいえ、電気系諸学科と情報工学科が、その教育・研究



川崎重工業㈱ 柴田福夫
(昭和二十二年卒)

電気自動車雑感

一九七〇年は「公害・公害」と呼ばれ続けて既にその大半を過ぎてしまった。此の頃ではこの「公害」と言う文字を見たり聞いたりすると、すぐ「電気自動車」と連想するようになつた。

奇妙なもので何ごとによらず、數回、いや数十回、数百回と同じことを聞いていて、不可能なものが可能であるように感じて来るものである。電気自動車などはつい此の間まで一般には成り立たないものだと考へられていたのだが、この頃では自動車はもう電気でなければならぬと皆が疑わなくなつた。何も知らない人が無責任にラジオテレビで電気自動車でなければならないと言つた。眞剣にその企業化を考えていたわが尊敬する先輩が日本人であり、而も洛友会員であつた。

神戸の造船所に勤めていた(今も勤めているが)私はその当時、三菱重工に勤めている弟が日曜のある日、近所の夙川の池へ魚釣り

輩エジソンは今地下で笑っているだろう。現在の自動車はエジソンの電池自動車に始まり、その弟子フォードの原動機自動車で完成したとIEEE(米国電気学会)スペクトラムに述べている。ところが今エジソンの純電池式自動車とフォードの原動機式自動車をミックス(アウフヘーベント私は言う)したハイブリッドの電気自動車が最も有望だと米国始め全世界で最近言わわれ始めた。

このような新電気自動車と言うオリジナリティのある発想は御多分にもれず欧米人のものだらうと日本人はたいていすぐそう思つものである。然し事実は小説よりも奇と言つた。今日の電気自動車を十一年前の一九六〇年からこつこつと考えていた馬鹿者がおり、それが日本人であり、而も洛友会員であつた。

この告後一年経過して昭和四十二年、世界一の企業ゼネラルモーターズが私の方式をそっくり真似しイギリスでもドイツのベンツでも此の私の方式つまりハイブリッド方式そのものを試作したため、遂に此の私の方式は世界の方式になってしまった。三年前ゼネラルモーターズでその試作が成功したことを新聞とラジオで知つた私は、

読みないので」との返事が返つて

輩エジソンは今地下で笑っているだろう。現在の自動車はエジソンの電池自動車に始まり、その弟子フォードの原動機自動車で完成したとIEEE(米国電気学会)スペクトラムに述べている。ところが今エジソンの純電池式自動車とフォードの原動機式自動車をミックス(アウフヘーベント私は言う)したハイブリッドの電気自動車が最も有望だと米国始め全世界で最近言わわれ始めた。

この告後一年経過して昭和四十二年、世界一の企業ゼネラルモーターズが私の方式をそっくり真似しイギリスでもドイツのベンツでも此の私の方式つまりハイブリッド方式そのものを試作したため、遂に此の私の方式は世界の方式になってしまった。三年前ゼネラルモーターズでその試作が成功したことを新聞とラジオで知つた私は、

だう。当时勤務先の会社で提案したが、業種違ひの会社であったとの余りにも早い発想であつた為に「氣違ひじみたことを言わず、もつとまじめにやれ」と、さんざん言われ、「特許はお前個人のもの」とまじめにやれ」と、さんざん会社は電気自動車には関知せず」との有難い判定が下され(その判定は今も保存し、記念にしている)、その時、個人で提出したもののが昭和四十一年特許庁に公告された。(興味ある方にはお教えするからご連絡下さい)

第三回総会を恒例により(二・八月第三木曜日)八月二十日午後六時より有楽町「ニューオークニー」にて開催した。

総勢四十八名中参加者十七名はいさか出席率は悪かつたが、酷暑の中を参集者一同至つて元気にて談論風発一夕を愉快に過した。

らつきよう会総会 (昭ハ一一年卒在京者)

年	参加者
昭11	林潔
昭10	西山安三
昭9	石川弘文
昭8	久保久雄
	田井梁之
	松井茂彦
	河野勝也
	大曲俊彦
	塩沢弘
	荻野和夫
	井上友一郎
	佐野一雄
	山上隆也
	杉本省一
	中山健一
	古池弘正
	(幹事)
	山本隆也



に行くのを乳母車に長男をのせて見に行つた時、静かに(当時は静かだった)こちらに向つて来た一台の自動車を見て発想したのである。多分、学生時代に田町附近で良く見かけた島津さん(島津製作所)の電気自動車を連想したのだろう。當時勤務先の会社で提案したが、業種違ひの会社であつたとの余りにも早い発想であつた為に「氣違ひじみたことを言わず、もつとまじめにやれ」と、さんざん言われ、「特許はお前個人のもの」とまじめにやれ」と、さんざん会社は電気自動車には関知せず」との有難い判定が下され(その判定は今も保存し、記念にしている)、その時、個人で提出したもののが昭和四十一年特許庁に公告された。(興味ある方にはお教えするからご連絡下さい)

来た。多分、相手は先手をとられてしまうしかったのだろう。

発想当時、私は経済的理由だけではなくことを今に後悔している。多分、学生時代に田町附近で良く見かけた島津さん(島津製作所)の電気自動車を連想したのだろう。當時勤務先の会社で提案したが、業種違ひの会社であつたとの余りにも早い発想であつた為に「氣違ひじみたことを言わず、もつとまじめにやれ」と、さんざん言われ、「特許はお前個人のもの」とまじめにやれ」と、さんざん会社は電気自動車には関知せず」との有難い判定が下され(その判定は今も保存し、記念にしている)、その時、個人で提出したもののが昭和四十一年特許庁に公告された。(興味ある方にはお教えするからご連絡下さい)

第三回総会を恒例により(二・八月第三木曜日)八月二十日午後六時より有楽町「ニューオークニー」にて開催した。

総勢四十八名中参加者十七名はいさか出席率は悪かつたが、酷暑の中を参集者一同至つて元気にて談論風発一夕を愉快に過した。

けている)、それでも私は今、世界の自動車の発展史の中に「エジソン——フォード——シバタ」と言ふ偉大な三人の名前を自分自身の頭の中に置く甘い幸福感にひたることが出来るのである。

十四日会

秋季山陰旅行記

このところ毎年催される我等十四日会（大正十四・十五年卒）の秋の大会は、去る十月十日正午より足かり三日間、山陰方面にて開催されました。

第一日は松江市・松江温泉一畠ホテルに集合、大会の開幕はホテル一階食堂に於ける昼食会に始まり、宍道湖の名産を賞味しつつお互いに久闊を叙しました。

午後二時ホテル出発、宍道湖を右に見ながら出雲大社に参拝、神宜の案内にて一同特別参拝に威儀正し、神酒を頂き、境内深く参入、礼拝を終り、宝物殿を拝観し更に神さびた千家の邸内を参観して午後五時過ぎホテルに着きました。七時からの開宴に先立ち、松江名物の松平不昧流による薄茶を頂戴し、宴会場に入りました。

松江の綺麗どこのサービスで、皆々ご気兼よく、更にホステス多数宴に侍り花を添えました。出雲

名物の安来節、鐘太鼓、関の五本松、鰐すくいなど、出雲愛之助一座の出演にて、郷土芸能を賞覽しました。閉宴九時。

翌十一日は、一同益々元気に朝食にまずビールの盃を上げ、小

泉八雲旧邸、同ヘルン記念館、武家屋敷、明々庵（茶室）等を見物し、更に千鳥城に登って、宍道湖および松江市の大觀を恣にしました。居は皆美館にて鯛茶漬および出雲そばが出来ましたが、七十近いご老体とも思えず、食欲の旺盛なことは特に記録に残す必要があると思われました。

この行に特別臨時会員として真田安夫氏（昭和二年卒）をお誘いしたところ、わざわざ広島より参會され、そのご好意により中国電力島根、鳥取両支店長およびその部下の方々が、この会の円滑なる運行に少なからぬご配慮を頂いたことは、会員一同深く感銘したことであります。

バスは一時半、皆美館を出発し屋旅館へと参集した面々は、四年組、馬渕良逸及光子夫人、久野清及千万夫人、松本販治、山県敏夫田村雄一及次子夫人、東善男、安藤亥三雄及常子夫人、鈴木亮三及純子夫人、富山良太郎及美代夫人五年組では、青木三郎及びみつ夫人和田正弘及登志子夫人、河合次男松井貞信及美智子夫人、佐世雅楽楓、福井佐市、瀬川量及千恵夫人小泉亮一郎、加茂忠恒、占部五郎真壁昌一及美子夫人、伊藤忠雄及浜子夫人等であった。

中国電力寄贈のご馳走やら、演芸やらがあり、日本海および湖魚の珍味を賞味しながら、宴は進みました。幹事の配慮で会員に無差別に余興披露の雷が落ちて、一同大いに歎をつくして九時閉宴となりました。

十二日は細雨の中を、鳥取大学砂丘研究所を訪問しました。教授兼同所々長は京大農学部昭和七年

昭四・五同期会

卒の方で、その所長の説明で砂丘開発当時の創業の苦心談と現況を傾聴しました。それから砂丘を訪れ、砂丘会館の楼上よりコーヒーを見物しました。

鳥取駅正午帰着、お互の健康を祝し、明年の再会を約して解散しました。

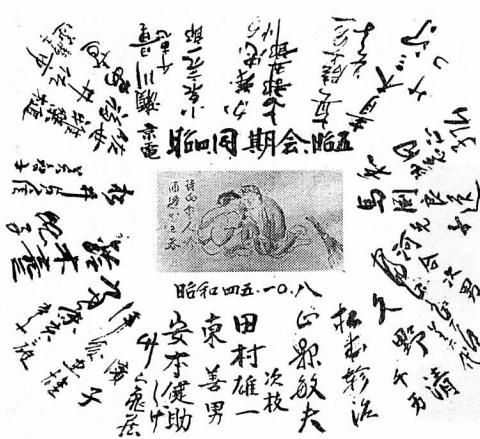
（吾郷侃二記）

去る十月十・十一日の連休日、我等昭四・五同期生は、信州蓼科・浅間の觀光をかね、同期会を催した。

二泊三日の旅行を楽しみに、油屋旅館へと参集した面々は、四年組から名高い芸者（自称）が五名ほど出演されたので、夜おそままで楽しい懇親会がつづいた。

さながら、それは寄書中の禅画のようであつた。

讃に「詩向会人吟酒逢知己吾仙作。大いに語り、大いに呑んだ」という風景であった。なお、それからマージャン・囲碁を楽しんだ仲間



もあつた。

下諏訪の油屋旅館は有名なので待遇もいいと考えていたが、連休にどうと寄せて来る客を腹一杯ためこんだ形。わたしも一行は旦那組と奥様組とに仕訳けられ、別々の部屋で雑魚饅をさせられたこの方がよいというものの、人の考え方のさまざま相を露呈した。

翌十日は霧ヶ峯・白樺湖とまわり、白樺湖畔のレストランで中食ここで司会者は学術会議を開いた、と前提し、約一時間、松本軫治君から、新聞に出たといふ健康食事法の講演を聞くことにした。それによれば、米からの酢を一日約五勺ほど飲用すれば、酢の成分が血液中に這入り込み、メタボリ

待遇もいいと考えていたが、連休にどうと寄せて来る客を腹一杯ためこんだ形。わたしも一行は旦那組と奥様組とに仕訳けられ、別々の部屋で雑魚饅をさせられたこの方がよいというものの、人の考え方のさまざま相を露呈した。

翌十日は霧ヶ峯・白樺湖とまわり、白樺湖畔のレストランで中食ここで司会者は学術会議を開いた、と前提し、約一時間、松本軫

ズムがよくなり、健康維持に役立

つのだ、との要旨であった。これはノーベル学者がすでに二〇〇六年ほど前に立証しているから信用すべきだ、という追加説明がある。この講演があつたので、その後、メンバー諸氏はこれを実行しているかしら……。

十日の晩は、藝術館のホテルで泊り、ここですき焼きの食事をした。予算の関係上、キレイどころは出でこず、代りに無料なねえちゃんがサービスをしてくれた。ここも観光客をできるだけ取るという主義で、旦那組と奥様組に引きさかれて、狭い部屋に雜魚寝させられた。さながら、それは、学生時代、登山の山の山小舎風景を思い出すようだ。

昭和三十年卒の卒業十五周年クラス会を、十月十五日午後二時半から京都木屋町五条の「鶴清」で開催された。卒業以来、十周年のに次ぐ二回目のクラス会である。

古くからある三階建て木造の大きな料理旅館だが、すぐ裏が加茂川べり、座敷から清水寺あたりを正面に望む東山の眺めがまことによい。加茂川の水の今もなお意外にきれいなのに驚き、さすが京都だと感心する。

ご出席頂いた先生は、松田先生
前田先生、林千博先生、大谷先生
田中先生、竹屋先生、池上先生

却つて印象的だつた。

十一日朝から霧が深く垂れ込んで、われらのバスは気怠えんえんのノロノロ運転、これにマイカー一族の氾濫も加わって、楽しみにしていた浅間高原のドライブは事実上不可能との見透しとなり、断念して下軽井沢よりそれぞれの家路へと急いだ。

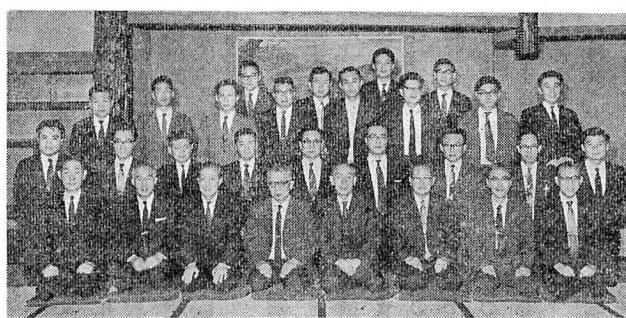
以上のことから、これから連休を利用しての二泊三日旅行は、計画通りに行かないことが実証されたようである。さて来年は、出雲路の旅行だが、どのような日取りがいいか幹事を受持つ松本、山県及び私の頭痛の種となつた。

洛友会諸兄のご健康を祈る。
(伊藤忠雄 記)

昭和三十年卒クラス会記

一）の四名が現在教室で活躍していることもあづかたかと、ひそかに想像し誠に有難く思う。

先ず、松田先生から御訓戒を賜わる。「今日の我国の隆盛は諸君界へ



にいさか手遅れに会話の能力の習得につとめよ。」との時先生のお説教は不思議である。

前田先生から教室の近況を伺う
大学紛争を契機とした大学改革が
今検討されつつあること、それは
また解決に期間を要する困難な問
題であることを知る。

卒業生全員、近況を報告する。卒業して十五年、会社などでは多数の直接の部下をもつ年代にかかっているようであり、部下の扱い

十周年のクラス会には、まだ子供のなかつた高橋義造（一人）高橋文彦（四人）竹田がそれぞれ、子供を授かり、養子をえたことは誠に目出たいことである。

林千博先生の御発声で乾杯する先生が教室に御赴任になつたときが、今の我々と同年であつたと、先生御自身を振りかえられて、今我々は働き盛りであると御激励を受ける。

先生方のお席には酒を持つてお話を伺うものが、入れ替り立ち替りあとを絶たず、宴はいつづけるとも知らなかつたが、午後七時散会した。次回は東京で開催の予定である。

（木村蔭次記）

四人 男二十人 女二十四人、平均子供数二、一人。平均子供數は十周年としてほぼ標準だが、子供がないのが一人もないというのではなく、目出たいとの御講評である。

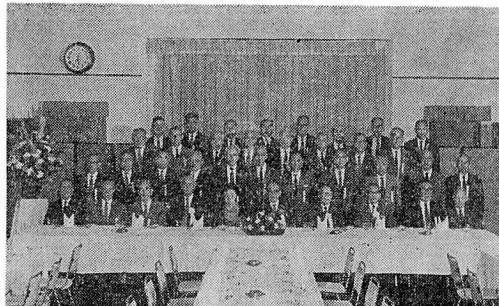
などに関する話が多い。次の二十周年には、どんな話題が中心になるだろうかと興味を感じる。

大谷先生が、卒業生三十一人から報告された子供についての統計を発表される。子供の数計四十

などに関する話が多い。次の二十周年には、どんな話題が中心になるだろうかと興味を感じる。

電講大正四年卒

村井貞三氏送別会



電気講習所出身の大先輩村井貞三氏は、故石川芳次郎氏のご經營になつて居られた京都電灯以来、終始石川さんのお仕事にたゞさわり今尚ご健在で、講習所出身の大先輩として後輩のご面倒をみて頂きましたが、長年住み慣れた京都の地を去り、岡崎市の御子様の許に悠々自適の生活にはいられることがとなりましたので、京都在住の講習所出身有志相集まり、十月六日夕村井貞三氏ご夫妻をお招きして、お別れの会を開きました。出席に鳥養、林重憲両先生のご

電気講習所出身の大先輩村井貞三氏は、故石川芳次郎氏のご經營になつて居られた京都電灯以来、終始石川さんのお仕事にたゞさわ

り今尚ご健在で、講習所出身の大先輩として後輩のご面倒をみて頂きました。その時の記念写真と寄せ書を載せました。

(立石亨三 記)



現住所及勤務先変更

(11・20~12・7届出分)

昭23	清水照夫
昭23	富士電機製造(株)川崎工場長
昭23	宇治市五ヶ庄官有地
宿舎223号(電)	(32) 三八八四
昭25	西田富士夫
昭25	堺市大野芝町23
大野芝宅舎4号	103
昭29	山下義雄
昭39	関西電力(株)工務部水力課長
昭39	高橋邦輔
昭41	国鉄東京第二電気工事局コンピュータ工事所助役
島255	茅ヶ崎市中魚住徹方(電)
箕面市箕面6丁目8の3	大塚克昌
昭44	田村秀行

○本号は予定より遅れ、やっと年内に会員各位にお届けすることができました。名簿の発送と重なり、事務多忙のため遅れましたことを御詫び致します。
○大先輩の道田貞治先生が突然御逝去になり哀悼の念に堪えません。先生を偲ぶ想い出を、松田長三郎先生より御寄稿を頂きましてので、冒頭にのせ、先生の記事を多数、御送り下さいましたことを、御礼申し上げます。
今後共、どしどし御寄稿をお願いします。
(幹事 山本記)

○本号は予定より遅れ、やっと年内に会員各位にお届けすることになりました。名簿の発送と重なり、事務多忙のため遅れましたことを御詫び致します。
○大先輩の道田貞治先生が突然御逝去になり哀悼の意を表します。

訃音

講大	明	大	道田貞治
大10	11	6	久高将吉
講大	11	6	松本脩二
大14	10	6	河野丑藏
講大	10	45	平林香
講大	11	45	道田貞治
講大	11	45	久高将吉
講大	11	45	松本脩二
講大	11	45	河野丑藏
講大	11	45	平林香
講大	11	45	道田貞治
講大	11	45	久高将吉
講大	11	45	松本脩二
講大	11	45	河野丑藏
講大	11	45	平林香
講大	11	45	道田貞治
講大	11	45	久高将吉
講大	11	45	松本脩二
講大	11	45	河野丑藏
講大	11	45	平林香
講大	11	45	道田貞治
講大	11	45	久高将吉
講大	11	45	松本脩二
講大	11	45	河野丑藏
講大	11	45	平林香
講大	11	45	道田貞治
講大	11	45	久高将吉
講大	11	45	松本脩二
講大	11	45	河野丑藏
講大	11	45	平林香
講大	11	45	道田貞治
講大	11	45	久高将吉
講大	11	45	松本脩二
講大	11	45	河野丑藏
講大	11	45	平林香
講大	11	45	道田貞治
講大	11	45	久高将吉
講大	11	45	松本脩二
講大	11	45	河野丑藏
講大	11	45	平林香
講大	11	45	道田貞治
講大	11	45	久高将吉
講大	11	45	松本脩二
講大	11	45	河野丑藏
講大	11	45	平林香
講大	11	45	道田貞治
講大	11	45	久高将吉
講大	11	45	松本脩二
講大	11	45	河野丑藏
講大	11	45	平林香
講大	11	45	道田貞治
講大	11	45	久高将吉
講大	11	45	松本脩二
講大	11	45	河野丑藏
講大	11	45	平林香
講大	11	45	道田貞治
講大	11	45	久高将吉
講大	11	45	松本脩二
講大	11	45	河野丑藏
講大	11	45	平林香
講大	11	45	道田貞治
講大	11	45	久高将吉
講大	11	45	松本脩二
講大	11	45	河野丑藏
講大	11	45	平林香
講大	11	45	道田貞治
講大	11	45	久高将吉
講大	11	45	松本脩二
講大	11	45	河野丑藏
講大	11	45	平林香
講大	11	45	道田貞治
講大	11	45	久高将吉
講大	11	45	松本脩二
講大	11	45	河野丑藏
講大	11	45	平林香
講大	11	45	道田貞治
講大	11	45	久高将吉
講大	11	45	松本脩二
講大	11	45	河野丑藏
講大	11	45	平林香
講大	11	45	道田貞治
講大	11	45	久高将吉
講大	11	45	松本脩二
講大	11	45	河野丑藏
講大	11	45	平林香
講大	11	45	道田貞治
講大	11	45	久高将吉
講大	11	45	松本脩二
講大	11	45	河野丑藏
講大	11	45	平林香
講大	11	45	道田貞治
講大	11	45	久高将吉
講大	11	45	松本脩二
講大	11	45	河野丑藏
講大	11	45	平林香
講大	11	45	道田貞治
講大	11	45	久高将吉
講大	11	45	松本脩二
講大	11	45	河野丑藏
講大	11	45	平林香
講大	11	45	道田貞治
講大	11	45	久高将吉
講大	11	45	松本脩二
講大	11	45	河野丑藏
講大	11	45	平林香
講大	11	45	道田貞治
講大	11	45	久高将吉
講大	11	45	松本脩二
講大	11	45	河野丑藏
講大	11	45	平林香
講大	11	45	道田貞治
講大	11	45	久高将吉
講大	11	45	松本脩二
講大	11	45	河野丑藏
講大	11	45	平林香
講大	11	45	道田貞治
講大	11	45	久高将吉
講大	11	45	松本脩二
講大	11	45	河野丑藏
講大	11	45	平林香
講大	11	45	道田貞治
講大	11	45	久高将吉
講大	11	45	松本脩二
講大	11	45	河野丑藏
講大	11	45	平林香
講大	11	45	道田貞治
講大	11	45	久高将吉
講大	11	45	松本脩二
講大	11	45	河野丑藏
講大	11	45	平林香
講大	11	45	道田貞治
講大	11	45	久高将吉
講大	11	45	松本脩二
講大	11	45	河野丑藏
講大	11	45	平林香
講大	11	45	道田貞治
講大	11	45	久高将吉
講大	11	45	松本脩二
講大	11	45	河野丑藏
講大	11	45	平林香
講大	11	45	道田貞治
講大	11	45	久高将吉
講大	11	45	松本脩二
講大	11	45	河野丑藏
講大	11	45	平林香
講大	11	45	道田貞治
講大	11	45	久高将吉
講大	11	45	松本脩二
講大	11	45	河野丑藏
講大	11	45	平林香
講大	11	45	道田貞治
講大	11	45	久高将吉
講大	11	45	松本脩二
講大	11	45	河野丑藏
講大	11	45	平林香
講大	11	45	道田貞治
講大	11	45	久高将吉
講大	11	45	松本脩二
講大	11	45	河野丑藏
講大	11	45	平林香
講大	11	45	道田貞治
講大	11	45	久高将吉
講大	11	45	松本脩二
講大	11	45	河野丑藏
講大	11	45	平林香
講大	11	45	道田貞治
講大	11	45	久高将吉
講大	11	45	松本脩二
講大	11	45	河野丑藏
講大	11	45	平林香
講大	11	45	道田貞治
講大	11	45	久高将吉
講大	11	45	松本脩二
講大	11	45	河野丑藏
講大	11	45	平林香
講大	11	45	道田貞治
講大	11	45	久高将吉
講大	11	45	松本脩二
講大	11	45	河野丑藏
講大	11	45	平林香
講大	11	45	道田貞治
講大	11	45	久高将吉
講大	11	45	松本脩二
講大	11	45	河野丑藏
講大	11	45	平林香
講大	11	45	道田貞治
講大	11	45	久高将吉
講大	11	45	松本脩二
講大	11	45	河野丑藏
講大	11	45	平林香
講大	11	45	道田貞治
講大	11	45	久高将吉
講大	11	45	松本脩二
講大	11	45	河野丑藏
講大	11	45	平林香
講大	11	45	道田貞治
講大	11	45	久高将吉
講大	11	45	松本脩二
講大	11	45	河野丑藏
講大	11	45	平林香
講大	11	45	道田貞治
講大	11	45	久高将吉
講大	11	45	松本脩二
講大	11	45	河野丑藏
講大	11	45	平林香
講大	11	45	道田貞治
講大	11	45	久高将吉
講大	11	45	松本脩二
講大	11	45	河野丑藏
講大	11	45	平林香
講大	11	45	道田貞治
講大	11	45	久高将吉
講大	11	45	松本脩二
講大	11	45	河野丑藏
講大	11	45	平林香
講大	11	45	道田貞治
講大	11	45	久高将吉
講大	11	45	松本脩二
講大	11	45	河野丑藏
講大	11	45	平林香
講大	11	45	道田貞治
講大	11	45	久高将吉
講大	11	45	松本脩二
講大	11	45	河野丑藏
講大	11	45	平林香
講大	11	45	道田貞治
講大	11	45	久高将吉
講大	11	45	松本脩二
講大	11	45	河野丑藏
講大	11	45	平林香
講大	11	45	道田貞治
講大	11	45	久高将吉
講大	11	45	松本脩二
講大	11	45	河野丑藏
講大	11	45	平林香
講大	11	45	道田貞治
講大	11	45	久高将吉
講大	11	45	松本脩二
講大	11	45	河野丑藏
講大	11	45	平林香
講大	11	45	道田貞治
講大	11	45	久高将吉
講大	11	45	松本脩二
講大	11	45	河野丑藏
講大	11	45	平林香
講大	11	45	道田貞治
講大	11	45	久高将吉
講大	11	45	松本脩二
講大	11	45	河野丑藏
講大	11	45	平林香
講大	11	45	道田貞治
講大	11	45	久高将吉
講大	11	45	松本脩二
講大	11	45	河野丑藏
講大	11	45	平林香
講大	11	45	道田貞治
講大	11	45	久高将吉
講大	11	45	松本脩二
講大	11	45	河野丑藏
講大	11	45	平林香
講大	11	45	道田貞治
講大	11	45	久高将吉
講大	11	45	松本脩二
講大	11	45	河野丑藏
講大	11	45	平林香
講大	11	45	道田貞治
講大	11	45	久高将吉
講大	11	45	松本脩二
講大	11	45	河野丑藏
講大	11	45	平林香
講大	11	45	道田貞治
講大	11	45	久高将吉
講大	11	45	松本脩二
講大	11	45	河野丑藏
講大	11	45	平林香
講大	11	45	道田貞治
講大	11	45	久高将吉
講大	11	45	松本脩二
講大	11	45	河野丑藏
講大	11	45	平林香
講大	11	45	道田貞治
講大	11	45	久高将吉
講大	11	45	松本脩二
講大	11	45	河野丑藏
講大	11	45	平林香
講大	11	45	道田貞治
講大	11	45	久高将吉
講大	11	45	松本脩二
講大	11	45	河野丑藏
講大	11	45	平林香
講大	11	45	道田貞治
講大	11	45	久高将吉
講大	11	45	松本脩二
講大	11	45	河野丑藏
講大	11	45	平林香
講大	11	45	道田貞治
講大	11	45	久高将吉
講大	11	45	松本脩二
講大	11	45	河野丑藏
講大	11	45	平林香
講大	11	45	道田貞治
講大	11	45	久高将吉
講大	11	45	松本脩二
講大	11	45	河野